

# 取扱説明書

## パワートロウエル

---

HG-S60

アクセルレバーの位置は、右ハンドルから左ハンドルに変更しています。

燃料

無鉛レギュラーガソリン



エンジンオイルは  
入っていません。

★ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みになり、内容を理解してからご使用ください。



TOP .....	1
表紙 .....	1
はじめに .....	4
安全上のご注意 .....	4
製品を長くご愛顧いただくために .....	5
安全にお使いいただくために .....	6
主要諸元 .....	8
各部の名称 .....	9
梱包部品一覧 .....	10
組立て .....	11
組立て .....	11
メインパイプの取付け .....	12
ハンドルの取付け .....	15
アクセルレバーの取付け .....	17
配線 .....	18
運転前の点検 .....	19
運転前の点検 .....	19
燃料の点検・補充 .....	20
エンジンオイルの給油 .....	21
ベルトの点検 .....	23
エアクリーナーの点検 .....	24
ピッチ（角度）調整ノブの固定 .....	25
各部のネジやボルトの緩み点検 .....	26
運転操作の仕方 .....	27
運転操作の仕方 .....	27
エンジンのかけ方 .....	28
エンジンがかからない時 .....	33
エンジンの止め方 .....	34
本体のコントロール .....	35
ブレードピッチ（角度）の調整 .....	36
移動について .....	37
運搬、輸送について .....	38
作業の仕方 .....	39
作業の仕方 .....	39
作業の開始 .....	40
作業の中断 .....	43
作業の終了 .....	44
点検・整備の仕方 .....	45
点検・整備の仕方 .....	45
燃料の抜き方 .....	47
エンジンオイルの点検・交換 .....	48
エアクリーナーの清掃 .....	50
点火プラグの点検・清掃 .....	51
ギヤオイルの点検・交換 .....	52
ベルトの交換 .....	53
アイドルリングの調整 .....	54
長期間使用しない時 .....	55
保管 .....	56
困った時の対処法 .....	57
困ったときの対処法（点火プラグの点検） .....	58
保証内容について .....	60
お客様ご相談窓口 .....	61
修理協力店 .....	63



## はじめに

このたびはお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

**誤った使い方をすると、重大な事故につながるおそれがあります。本製品を使用する前に、この取扱説明書をよく読み、内容を十分に理解してください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。**

### 安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です。必ずお守りください。

■表示内容を無視して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



**警告**

この表示の欄は、「死亡または重傷を負う恐れがある」内容です。



**注意**

この表示の欄は、「軽傷、物的損害、故障が生じる恐れがある」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



**禁止**

このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



**強制**

このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

**製品を長くご愛顧いただくために**

取扱説明書に従った正しい取扱いや定期点検、保守を行ってください。注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

## 安全にお使いいただくために

誤った使い方をすると、重大な事故につながるおそれがあります。本製品を使用する前に、この取扱説明書をよく読み、内容を十分に理解してください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

### パワートロウエルに係る安全事項



警告



禁止

- ・燃料の臭いがする場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- ・エンジンの排気ガスは吸い込まないでください。人体に有害な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・回転している部分の近くに手または足を入れないでください。
- ・エンジンの運転中や運転停止直後はエンジン本体やマフラー部が熱くなっていますので、手・身体などを触れないでください。火傷をする恐れがあります。
- ・改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、当社の保証サービスは一切受けられなくなります。
- ・指定された用途以外には使用しないでください。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・操作の仕方がよく分からない成年者の独自の使用はご遠慮ください。
- ・使用中は、点火プラグキャップ部や高圧コードに触れないでください。
- ・運転中に回転部及び可動部に手足や衣類を絶対に近付けないでください。触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。
- ・排気ガスを周囲の動植物等に当てないでください。



強制

- ・本機を密閉された場所に燃料を入れたまま放置しないでください。燃料が蒸発し、爆発の危険があります。
- ・自動車で運搬するときは、燃料タンクの燃料を抜いてください。振動等により燃料が漏れることがあります。
- ・給油は、必ずエンジンを停止し十分冷えた後に行ってください。また、付近にタバコ等の火気が無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化すると爆発の危険があります。
- ・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- ・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- ・給油は、換気の良い所で行ってください。燃料の蒸気が蓄積し火災の恐れがあります。
- ・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。静電気の火花によって引火の恐れがあります。
- ・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
- ・燃料タンクキャップは確実に締めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
- ・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。火災の恐れがあります。
- ・点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料の蒸気へ引火する恐れがあります。
- ・運転中に高圧コードや点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・使用中に異常音、異常振動があったときは、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよく理解したうえでご使用ください。



注意



禁止

- ・本機はブレードの回転により、コンクリート打設後の硬化途中のコンクリートを平滑に仕上げることを目的とした機械です。用途以外には使用しないでください。





強制

- ・燃料はレギュラーガソリンを使ってください。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- ・部品交換は、純正部品を使用してください。
- ・本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
- ・定期点検整備を行ってください。
- ・子供の手の届かない安全な場所に保管してください。



### パワートロウエルの作業に係る安全事項



警告

 <b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 身体の調子が悪い時、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。</li> <li>• ご使用時は、人や動物が近づけないでください。</li> <li>• 夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。</li> <li>• 足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。</li> <li>• 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。</li> <li>• 室内、トンネル内、深い溝内など換気の悪い場所では使用しないでください。</li> <li>• 火気の近くで運転をしないでください。</li> <li>• エンジンをかけたまま本機から離れないでください。</li> </ul>
 <b>強制</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 適切な間隔で、休憩をとってください。</li> <li>• 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。</li> <li>• 異常があった場合や、危険を感じたり予測される場合も、作業を中断し、完全に修理してから再始動してください。</li> <li>• 持ち運びときは、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜取ってください。</li> <li>• 作業中は、足を近づけないよう十分ご注意ください。ブレードに足が当たり、大怪我をする恐れがあります。</li> </ul>

 **注意**

 <b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 機械の稼働部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。</li> </ul>
 <b>強制</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 長袖、長ズボンを着用し、すべりにくい靴、手袋、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。</li> <li>• 長い髪は束ねて帽子、ヘルメットでカバーしてください。</li> <li>• シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。</li> <li>• 毎回作業前に各部のネジ等の締付け具合を点検してください。振動でネジ等が緩み、思わぬ事故の原因になります。</li> <li>• 常に足場に注意し、本機のバランスを保てる無理のない安定した姿勢で作業を行ってください。</li> <li>• 本機を長時間使用しないときは、取扱説明書にしたがって保管してください。</li> </ul>

## 主要諸元

モデル名	HG-S60
エンジン型式	DUCAR212 4ストロークエンジン
排気量	212cm <sup>3</sup>
馬力	6.5馬力
パワー	4.8kw
回転直径	570mm
ブレードサイズ	230×120mm
ブレード厚み	1.8mm
ブレード数量	4枚
ブレード回転数	60-125min <sup>-1</sup> (rpm)
調整可能な角度	0-15°
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	3.6L
起動方式	リコイルスターター方式
エンジンオイル	SAE10W-30
エンジンオイル容量	0.6L
ギヤオイル	SAE140
ギヤオイル容量	0.35L
互換点火プラグ	BPR7ES(NGK)
寸法 (幅×奥行×高さ)	630×1600×1000mm (メインパイプからハンドルを平行に取付けた状態)
折りたたみ時寸法 (幅×奥行×高さ)	630×1000×830mm
エンジンの地面からの高さ	600mm
ピッチ調整ノブの地面からの高さ	740mm
本体重量	56.5kg

©弊社は、顧客満足度100%を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。  
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。  
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

## 各部の名称

※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。



- ①ハンドル
- ②ハンドル角度調整ノブ
- ③マフラー
- ④ベルトカバー
- ⑤ガードリング
- ⑥ブレード
- ⑦エンジンスイッチ
- ⑧燃料タンクキャップ

- ⑨アクセルレバー
- ⑩燃料コック
- ⑪チョークつまみ



- ⑫アクセルレバー
- ⑬ピッチ調整ノブ
- ⑭メインパイプ
- ⑮エアクリーナー
- ⑯燃料タンク
- ⑰キャリーハンドル
- ⑱ギヤボックス
- ⑲リコイルスターター
- ⑳エンジンスイッチレバー

## 梱包部品一覧

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
2. 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。



警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

<p>A. 本体</p>	<p>B. ハンドル</p>
	
<p>C. プラグレンチ★</p>	<p>D. エアフィルタ (予備) ★</p>
	
<p>E. ベルト (予備) ★</p>	<p>F. プロバイホース (予備) ★</p>
	
<p>G. メインパイプ</p>	
	

※製造時期により仕様変更になる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。  
 ★サービス品です。予告なく終了する場合があります。

# 組立て

---

## 組立て



- 組立ては平坦な場所で行ってください。不安定な場所で行うと本機が倒れ、けがにつながる恐れがあります。
- 組立て作業中は周囲に子供やペットが近づかないよう配慮をお願いします。
- 組立後は、すべての部品が確実に取付けられていることを確認してください。

# 組立て

## メインパイプの取付け

本体にメインパイプを取付けます。

■使用工具：16mmスパナ 1本  
13mmスパナ 2本

1

本体に仮留めしている平ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットを一旦取外します。



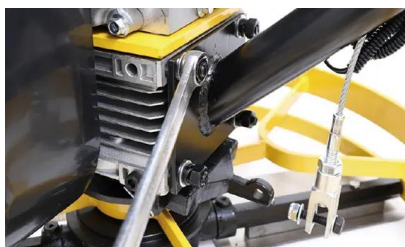
2

本体のボルトにメインパイプの取付穴を合わせ、挿込みます。



3

外した平ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットを再度、取付けます。



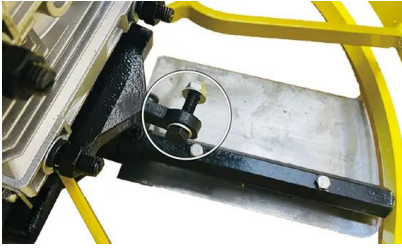
4

ピッチ調整ノブを反時計回りに止まる所まで回します。



5

本体の黒い金属部に仮留めしているボルト、ナット、ワッシャを一旦取外します。



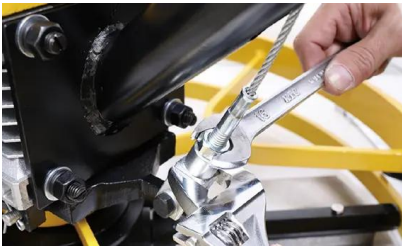
6

ピッチアジャスタの穴を黒い金属部の穴に合わせてから、ボルト、ナット、ワッシャを穴に通すようにスパナで再度、取付けます。



7

ピッチアジャスタワイヤのナットを調整して、張りを調整します。



8

ピッチ調整ノブを時計回りに回し、ピッチアジャスタワイヤが引っ張られ、ブレードの角度が変わるか確認します。



 注意

メインパイプより出ているコードは、長めに設計されているため、そのまま使用しますと、引きずったり、引っ掛けたりする可能性があります。結束バンド等でまとめてハンドルに固定しておくことをおすすめします。  
(結束バンドは付属していません)



# 組立て

## ハンドルの取付け

メインパイプにハンドルを取付けます。

1

メインパイプのハンドル調整ノブを回し、ノブ、ハンドル調整ボルト、ワッシャを一旦取外します。



2

メインパイプのハンドル取付穴とハンドルの穴を合わせます。



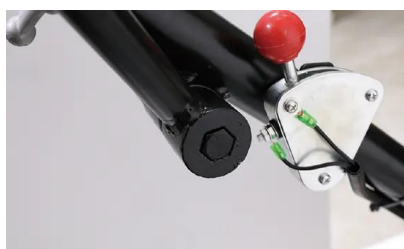
### ワンポイント

ハンドルの幅がメインパイプの取付部分の幅より狭い場合は、ハンドルに取付ける前に写真のように予め手足を使って、ハンドルの幅を広げてください。



3

ハンドルの高さを決め、ハンドル調整ボルトを取外した時と反対側から穴に通します。



4

穴に通したボルトにワッシャを通してから、ハンドル調整ノブを回し、ハンドルを固定します。



**5**

ハンドル調整ノブを緩めることで、ハンドルの高さを調整することができます。



**6**

ハンドルを折りたたむ場合は、写真の位置にします。



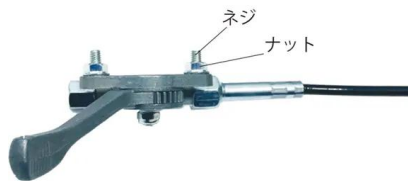
# 組立て

## アクセルレバーの取付け

ハンドルにアクセルレバーを取付けます。  
■使用工具：10mmスパナ、プラスドライバー

1

アクセルレバーステーに仮留めしているネジ、ナットを一旦取外します。



2

ハンドルの左側に取付け、ネジ、ナットを締付けます。

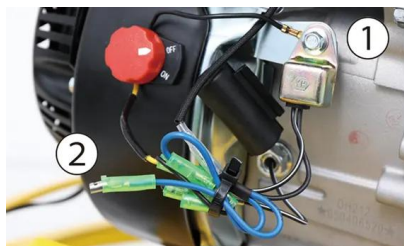


# 組立て

## 配線

メインパイプから伸びているコードとエンジン側のコードを接続します。

■使用工具：8mmスパナ



### 1

①のボルトを8mmのスパナで一旦取外し、コードAの丸形端子をボルトに通します。



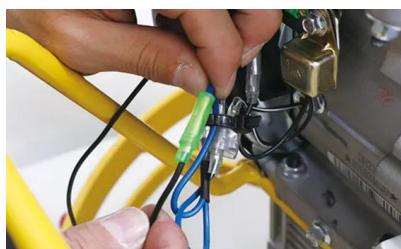
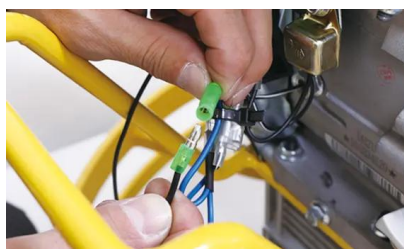
### 2

同じ位置に取付け、ボルトを締付けます。



### 3

ギボシ端子のオスBとメス②をしっかりと挿込み、緑のチューブをかぶせます。



## 運転前の点検

### 運転前の点検



警告



禁止

- ・ エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・ 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・ 運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。



強制

- ・ 燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・ 燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・ 燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・ 燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。



注意



強制

- ・ 燃料給油キャップは確実に閉めてください。
- ・ 長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜取り、火気のないところに保管してください。
- ・ 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

## 運転前の点検

### 燃料の点検・補充

使用燃料	自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）
タンク容量	3.6L

燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。

出荷時が入っていません。

**1**

燃料タンクキャップを取外します。



**2**

液面を見て残量を確認します。



**3**

少ない時は、無鉛ガソリンを少しずつこぼさないように、上限（赤い目印）の位置まで給油します。

**4**

給油が終わったら、燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。

# 運転前の点検

## エンジンオイルの給油

エンジンオイルは出荷時には入っていません。

必ず給油してください。また、工場で試運転をしているため、若干オイルが残っている場合があります。給油の際は、オイルゲージで確認してください。

推奨オイル	4ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油SAE10W-30
オイル容量	0.6L

### 1

本機は汎用エンジンを使用しているため、オイル給油口が2カ所あります。どちらを使用しても同じですが、片側のキャップにはオイルゲージは付いていません。



### 2

本体を水平な場所に移動させ、オイル給油キャップを外し、オイルゲージに付着したオイルを布などで拭取ります。



### 3

オイル給油キャップを取付け一旦締付け、再度外します。



注意

- ・ エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジン不調になる恐れがあります。
- ・ こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

### 4

オイルが、オイルゲージのオイル量範囲（中央）まであるか点検します。



**5**

オイル量が少ない時は、新しいオイルを補給します。

**6**

給油が終わったらオイル給油キャップをしっかり締めます。

# 運転前の点検

## ベルトの点検

ベルトに亀裂、磨耗、損傷がないか確認します。



- ・点検時、エンジンは絶対にかけないでください。重大な事故に繋がります。
- ・ベルトに亀裂、磨耗、損傷がある場合は、ベルトの交換が必要です。

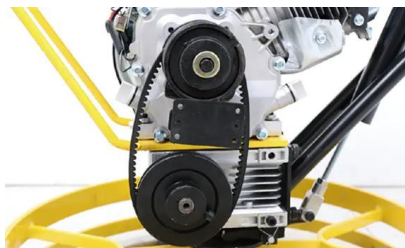
### 1

ベルトカバーを止めている4カ所の六角ボルトを取外し、ベルトカバーを取外します。



### 2

ベルトを目視で確認します。※クラッチは自動調整式（パテント）になっているためベルトの張り調整は不要です。



### 3

使っていくうちにベルトがスリップし始めたら、クラッチの動作に異常がないことを確認し、ベルトの交換を行います。（詳細は点検・整備の仕方「ベルトの交換」）

## 運転前の点検

---

### エアクリーナーの点検

エアフィルタを点検し、汚れている場合は清掃を行ってください。

**1**

エアクリーナーカバーのノブを取外し、カバーを取外します。



**2**

エアフィルタの汚れはエアブロー等で吹き飛ばします。汚れがひどい場合は、エアフィルタの交換が必要になります。（詳細は、点検・整備の仕方「エアクリーナーの清掃」参照）

## 運転前の点検

---

### ピッチ（角度）調整ノブの固定

振動によりピッチ調整ノブが動く場合があります。角度の調整ができれば、必ず六角ボルトを締付けて固定します。



## 運転前の点検

---

### 各部のネジやボルトの緩み点検

各部のネジやボルトに緩みがないか、毎回確認してください。  
緩んでいる場合は、増し締めをしてください。  
怠ると思わぬ事故、故障につながる恐れがあります。

# 運転操作の仕方

## 運転操作の仕方



- ・ 振動障害の予防策として長時間の連続使用はしないでください。
- ・ 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- ・ 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・ エンジン作動中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので高温部に触れないでください。



- ・ 平坦な場所で作業を行ってください。
- ・ エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- ・ 本機から離れる時は必ずエンジンを停止してください。
- ・ 少しの移動でもエンジンを停止してください。



エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がないことを確認してください。

# 運転操作の仕方

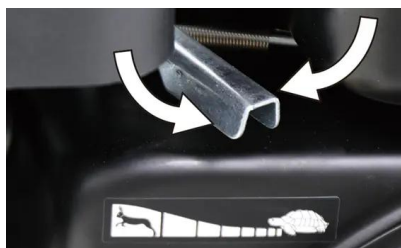
## エンジンのかけ方

以下を確認してください。

- レギュラーガソリンを入れましたか？
- エンジンオイルを入れましたか？
- エアフィルタの汚れを確認しましたか？

**1**

アクセルレバーを、「高速側」と「低速側」の中間にします。エンジン側のアクセルレバーでも操作が可能です。その場合は、「うさぎマーク」と「かめマーク」の中間にします。



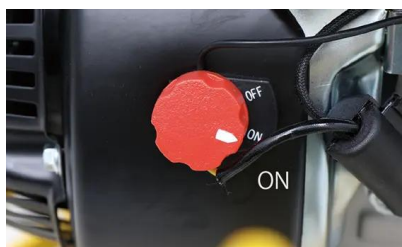
**2**

ガソリンコックを右に引き「ON」にします。



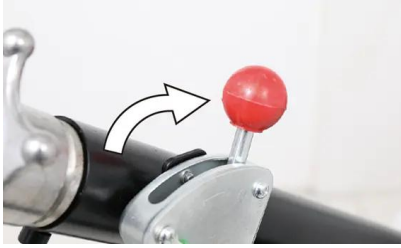
**3**

エンジンスイッチを「ON」にします。



**4**

手元のスイッチレバーを奥に倒します。



## ■エンジンが冷えている時のかけ方

外気温には関係なく、エンジンそのものが冷えている場合です。翌日の再始動などがこれに該当します。

1

チョークつまみを左に引き「閉」にします。



※運転停止直後の再始動をする場合には、チョークつまみを「全開」にします。

2

本機をしっかり保持し、リコイルスターターロープを引きます。



※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。おおよそ60～70cm引いてください。（ロープは一杯に引き切らないでください。）引きが少ないとエンジンはかかりません。



注意

何度もチョークを閉じたままリコイルスターターロープを引くと、点火プラグを濡らしてしまいます。万が一、濡らしてしまった場合は、「困ったときの対処法（点火プラグの点検）」をご覧ください。



リコイルの引き方ポイント



※写真は別機種

①良い例：約70cm引いている。

②良い例：穴に対してロープが真っ直ぐ。

③悪い例：穴に対してロープが真っ直ぐでない、抵抗が生まれエンジンがかかりにくく、ロープが摩擦で切れます。

### 3

エンジンがかかったらすぐチョークつまみを「開」にします。



### 4

エンジンが始動したら1～2分程度アクセルレバーを「低速側」にし、暖気運転をします。

### 5

この時、ブレードが回転したり、エンジンが止まりそうなら、エンジンを一旦止め、アイドル調整を行います。

### 6

アクセルレバーをアイドル「低速側」から運転「高速側」にすると、ブレードが回転を始めます。



作業中は、ブレードに足を近づけたり、ガードリングに足を乗せたりしないでください。足を挟まれ大変危険です。



注意

- ・ アクセルレバーの操作をゆっくり行くと半クラッチ状態が続き、クラッチが破損する恐れがあります。また、乱振動を起こしますのでアクセルレバーは素早く動かしてください。
- ・ 作業を中断する時は、その都度アクセルレバーを「低速側（かめマーク側）」にしてください。

## ■エンジンが温まっている時のかけ方

外気温には関係なく、エンジンそのものが温まっている場合です。再始動などがこれに該当します。

1

チョークつまみを「開」にします。



2

本機をしっかり保持し、リコイルスターターロープを引きます。



※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。おおよそ60～70cm引いてください。（ロープは一杯に引き切らないでください。）引きが少ないとエンジンはかかりません。



注意

- ・ ロープを最後まで引き切らないでください。
- ・ 一度に6回以上は引張らないでください。
- ・ 引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。

3

エンジンがかからない場合は、運転操作の仕方の「■エンジンが冷えている時のかけ方」を実施してください。

4

エンジンが始動したら1～2分程度暖気運転をします。

5

エンジンが止まりそうなら、エンジンを一旦止め、アイドルリングの調整を行います。

## 6

アクセルレバーをアイドルリング「低速側」から運転「高速側」にすると、ブレードが回転を始めます。



### 警告

作業中は、ブレードに足を近づけたり、ガードリングに足を乗せたりしないでください。足を挟まれ大変危険です。

### 注意

- アクセルレバーの操作をゆっくり行くと半クラッチ状態が続き、クラッチが破損する恐れがあります。また、乱振動を起きますのでアクセルレバーは素早く動かしてください。
- 作業を中断する時は、その都度アクセルレバーを「低速側（かめマーク側）」にしてください。

## 運転操作の仕方

---

### エンジンがかからない時

以下を確認してください。

- レギュラーガソリンを使用していない。又は古い燃料を使用している可能性があります。
- チョークレバーを「閉」にしていない。
- エアフィルタが汚れている。
- リコイルの引き方が正しくない。
- 燃料が行き過ぎて、点火プラグを濡らしてしまっている可能性があります。

# 運転操作の仕方

## エンジンの止め方

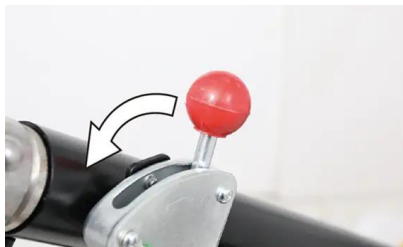
1

アクセルレバーを「低速側（かめマーク側）」にし、エンジンを低速運転にします。



2

手元のスイッチレバーを手前に倒します。



3

エンジンスイッチを「OFF」にします。

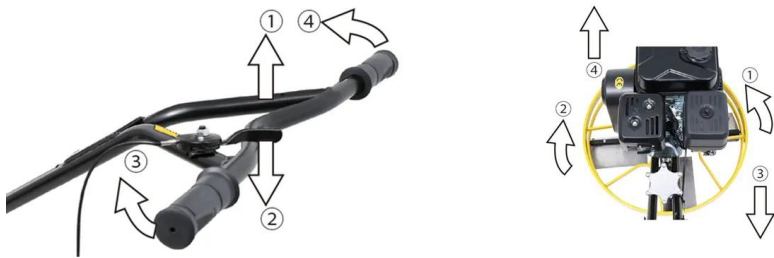


エンジン停止後しばらくは、エンジン、マフラ等の高温部に触らないでください。やけどの恐れがあります。

# 運転操作の仕方

## 本体のコントロール

操作はハンドルの力の入れ具合で、左右、前後進が可能です。



### 1

①のように、ハンドルを少し持ち上げ気味にすると、左に動きます。

### 2

ハンドルを少し押し下げる②と、右に動きます。

### 3

ハンドルを少し左に押し気味のする③と後進します。

### 4

ハンドルを少し右に押し気味のする④と前進します。

# 運転操作の仕方

## ブレードピッチ（角度）の調整

作業工程によりブレードのピッチ（角度）の調整を行います。



1

ピッチ調整ノブを時計回り（右回り）に回すと、ブレードと地面の角度が大きくなります。



2

ピッチ調整ノブを時計回り（右回り）に回すと、ブレードと地面の角度が大きくなります。

3

調整が終わったら、六角ボルトを締付けます。



振動によりピッチ調整ノブが動く場合があります。適宜六角ボルトを締付けてください。

# 運転操作の仕方

## 移動について

本機を移動する時は、2人以上で行ってください。

1

1人がハンドル下部を持ち、1人がキャリアハンドルを持って移動してください。



ガードリングは持たないでください。変形する恐れがあります。

# 運転操作の仕方

## 運搬、輸送について

本機を運搬する時は、次のことに注意してください。



- 運搬時は必ずエンジンを停止してください。
- 運搬する場合は、燃料漏れによる火災を防止するため、燃料タンクから燃料を抜き取ってください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので注意してください。
- 作業直後にカバーをかけないでください。エンジンが熱くなっており、火災の原因になります。



- 手作業で本機の積み込み、積降ろしする際は、足の上に落としたり、挟まれないよう十分ご注意ください。
- 運搬中に本体が動かないように、ロープなどでしっかり固定してください。

# 作業の仕方

## 作業の仕方



- 身体の調子が悪い時は、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
- 動作中にブレード部分の近くに足を近づけたり、足を入れないでください。
- ご使用時は、使用者から15m以内は危険です。人や動物が入らないようにしてください。
- 夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。
- 足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
- 作業中に異物に当たったり、異物が巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、完全に停止してから異物を除去し、本機に異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。
- 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
- 急傾斜地では使用しないでください。



- 本機を1人が連続で長時間使用せずに運転員を交代したり、十分な間隔をあけて使用してください。
- 適切な時期に休憩をとってください。
- 本機から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。
- 危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- 少しの移動でもエンジンを停止し、ハンドルを持って運搬してください。
- しっかりハンドルを握って操作してください。

# 作業の仕方

## 作業の開始



操作者の経験が浅い場合は、必ず経験者指導のもとで操作を行ってください。

## ●ムラ取り（不陸調整）作業

1

コンクリートがアミゲタで乗れる程度になった時点（ある程度硬化した時点）で、ムラ取り（不陸調整）を行うため、別売のスムージングディスク（円盤）を使用します。



2

エンジンを始動します。（運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照）

3

暖機運転後、ハンドルをしっかりと持って、アクセルレバーをアイドル「低速側」から運転「高速側」にすると、ブレードが回転を始めます。



4

運転操作の仕方「本体のコントロール」の要領で作業を進めます。



5

コンクリートが固まる前に凸凹をならします。

6

運転操作の仕方「エンジンの止め方」の要領で作業を一旦終了します。

## ●仕上げ作業

1

コンクリートが固まり出す（金ゴテで押さえられる程度）まで待機します。

2

スミングディスク（円盤）を取外しブレードのみにし、コテ仕上げ作業を行います。



3

エンジンを始動します。（運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照）

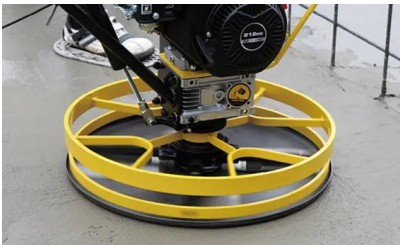
4

暖機運転後、ハンドルをしっかり持って、アクセルレバーをアイドルリング「低速側」から運転「高速側」にすると、ブレードが回転を始めます。



5

運転操作の仕方「本体のコントロール」の要領で作業を進めます。



※写真は、コンクリートがまだ緩いため筋が付いていますが、本来はもう少し硬化してから金ゴテの要領で押さええていくと鏡面状になります。

6

必要に応じてブレードのピッチ（角度）の調整を行い、凸凹をならします。



**7**

運転操作の仕方 「エンジンの止め方」の要領で作業を一旦終了します。

## 作業の仕方

---

### 作業の中断

作業を短時間中断する時は、その都度アクセルレバーを「低速側」してください。燃料の節約、エンジンの寿命にも好影響を与えます。

# 作業の仕方

---

## 作業の終了

作業中に付着したコンクリートが硬化する前に清掃をします。

**1**

ブレード及び回転部分に付着したコンクリートが硬化する前に、丁寧に水洗いをします。

**2**

よく乾燥させ、グリスや潤滑剤を各部に塗布します。



清掃を怠ると、次回快適に使用できなくなります。  
特に、ブレード底面にコンクリートが付着硬化した場合は、仕上がりが綺麗にできなくなります。  
また、回転部品に付着したコンクリートをそのままにしておくと、硬化して、動かなくなる恐れがあります。

# 点検・整備の仕方

## 点検・整備の仕方



警告

- ・点検整備をする時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- ・点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。



注意

- ・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- ・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

対象部品	点検項目	運転前の点検	初回の1ヵ月後または20時間運転後	3ヵ月毎または50時間運転毎	6ヵ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転	掲載ページ
燃料	ガソリン量 漏れ	●					運転前の点検「燃料の点検・補充」
エンジンオイル	オイル量	●					運転前の点検「エンジンオイルの給油」
	交換		●	●			点検・整備の仕方「エンジンオイルの点検・交換」
ギアオイル	オイル量			●			点検・整備の仕方「ギヤオイルの点検・交換」
	交換					●500時間毎	点検・整備の仕方「ギヤオイルの点検・交換」
エアクリナー	清掃			●			点検・整備の仕方「エアクリナーの清掃」
	交換					●	点検・整備の仕方「エアクリナーの清掃」

点火プラグ	清掃				●		点検・整備 の仕方「点 火プラグの 点検・清掃」
	交換					●	点検・整備 の仕方「点 火プラグの 点検・清掃」

## 点検・整備の仕方

---

### 燃料の抜き方

1

燃料タンクのキャップを取外し、タンク内の燃料を手動のポンプ等で抜きます。

2

○部分のボルトを緩めて、ガソリンを容器に受けます。  
キャブレターの燃料を抜くことができます。



3

燃料を抜き終わったら、緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。

# 点検・整備の仕方

## エンジンオイルの点検・交換

### 【エンジンオイルの交換】

エンジンオイルは、初回20時間、以降50時間毎に行ってください。

**1**

廃油受けを準備します。

**2**

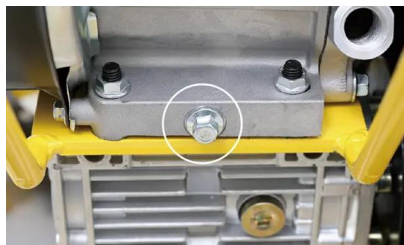
本機を水平な場所で水平な状態にします。

**3**

オイル給油キャップを取外すと、オイルが抜けやすくなります。

**4**

ドレンボルトを取外し、オイルを排出します。



**5**

排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に閉めます。

**6**

新しいエンジンオイルを、市販のオイルジョッキを使用して入れます。

**7**

新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央まで入れます。



推奨オイル	4ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油SAE10W-30
オイル容量	0.6L

給油後は、確実にキャップを締めます。

## 点検・整備の仕方

### エアクリーナーの清掃

エアクリーナーのフィルタを清掃します。

**1**

エアクリーナーカバーのノブを回しカバーを取外します。



**2**

エアフィルタを取外し、汚れをエアブロー等で吹き飛ばします。



**3**

エアフィルタが破損したり、汚れが取れない場合は、エアフィルタの交換が必要になります。

**4**

取外しと反対の手順で取付けます。

# 点検・整備の仕方

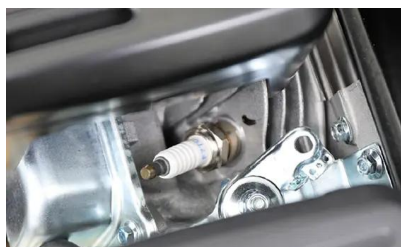
## 点火プラグの点検・清掃

点火プラグを外し、電極の点検・清掃を行います。  
■使用工具：プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ

適応点火プラグ	BPR7ES(NGK)
---------	-------------

1

点火プラグキャップを取外します。



2

点火プラグをプラグレンチで取外します。



3

点火プラグをワイヤブラシで清掃します。



4

取外しと反対の手順で取付けます。

※点火プラグは、点火プラグキャップにしっかりとめつけてください。はめ込みがあまりいと点火しません。

## 点検・整備の仕方

### ギヤオイルの点検・交換

ギヤオイルは、3カ月又は50時間毎に点検し、500時間毎に交換を行ってください。

推奨オイル	4ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油 SAE 140
オイル容量	約0.35L

### 【ギヤオイルの交換】

**1**

廃油受けを準備します。

**2**

本機を水平な場所で水平な状態にします。

**3**

ギヤボックスにあるドレンを六角レンチで緩めオイルを抜きます。



**4**

新しいギヤオイルを、市販のオイルジョッキを使用して入れます。

**5**

新しいギヤオイルは穴ぎりぎりまで入れます。

**6**

給油後は、確実にキャップを締めます。

# 点検・整備の仕方

## ベルトの交換

ベルトにも亀裂、摩耗、損傷がある場合は、ベルトの交換をします。

### ■互換ベルト

バンド製	SA-27
------	-------

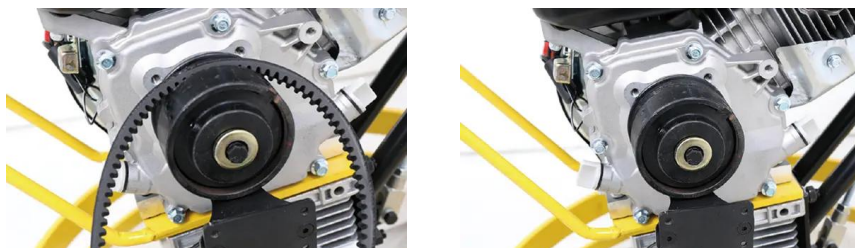
**1**

ベルトカバーを止めている4ヵ所の六角ボルトを取外し、ベルトカバーを取外します。



**2**

下側のプーリーからベルトを取外します。



**3**

新しいベルトを下側のプーリーからはめ、上側のプーリーにはめます。

**4**

ベルトカバーを取付けます。

## 点検・整備の仕方

---

### アイドリングの調整

アクセルレバーを「低速側」し、エンジン始動したと同時にブレードが回転したり、エンジンを始動してもすぐ止まる場合は、アイドリング調整を行います。

**1**

アイドリング調整は、ドライバーで調整スクリューを回します。



**2**

アイドリング時に調整スクリューを反時計回りに回すと、回転が下がります。調整スクリューを時計回りに回すと回転数が上がります。

## 長期間使用しない時

---

### ●本機を2週間以上使用しない時

**1**

燃料タンクから燃料を抜きます。

**2**

エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。余った燃料は、密封容器に入れ、冷暗所に保管し、1ヵ月以内に使い切ってください。

**3**

各部ボルト・ネジの破損、腐食、緩みの点検をします。

**4**

湿気やホコリが少なく、子供の手が届かない場所に保管してください。

**5**

倉庫、物置などに保管する場合は、マフラーからの虫の侵入を防ぐために、マフラーの穴を塞いでください。

# 保管

---

**1**

燃料タンクの燃料を抜取ります。市販のオイルチェンジャーをご使用いただくと簡単に抜くことができます。

**2**

エンジンを再び始動させ、キャブレター及び燃料パイプ内の燃料を使い切ってください。

**3**

屋内の直射日光があたらない場所に保管してください。

## 困った時の対処法

### ●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	点火プラグ不良	交換
	点火プラグキャップ接続不良	点火プラグをしっかりとめる
	イグニッションコイルの不良	メーカー、購入店に問い合わせ
キャブレターに燃料が来ていない	燃料が入っていない	燃料を入れる
	燃料コックがOFFになっている	燃料コックをONにする
	燃料タンク内の異物混入による詰まり	ホース清掃、交換 交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレター詰まり (ニードル・バルブ固着)	キャブレター分解掃除 メーカー、購入店に問い合わせ
エンジンがかからない	エンジンオイルの入れすぎ	オイルを抜く
	エンジンオイルが少ない	オイルを補充（運転前の点検「エンジンオイルの給油」）
	エンジンオイルにガソリンが混ざっている	清掃、交換（点検・整備の仕方「エンジンオイルの点検・交換」）
	エアクリーナーの汚れ	清掃、交換（点検・整備の仕方「エアクリーナーの清掃」）
リコイルスターターが引けない又は重い	古い燃料によるエンジン不調	燃料の入替え（点検・整備の仕方「燃料の抜き方」）
	エンジンの焼付き	メーカー、購入店に問い合わせ

### ●エンジン不調

症状	原因	対処
力が弱い	エアクリーナーの汚れ	きれいにする又はフィルタの交換
	燃料パイプに空気が入っている	空気を抜く
	イグニッションコイルの不良	メーカー、購入店に問い合わせ
マフラーから煙が出る	チョークつまみの戻し忘れ	つまみを右（全開）にする
	エンジンオイルの入れすぎ	オイルを抜く
	ピストンリングの磨耗	メーカー、購入店に問い合わせ
	ガソリンに水分が含まれている	燃料交換（点検・整備の仕方「燃料の抜き方」）
	エアフィルタが水で濡れている	完全に乾かす

### ●本体の不調

症状	原因	対処
エンジンは回転するがブレードが遅い、動かない	アクセルレバーの操作が遅い	操作を早くする
	クラッチのすべり	クラッチの交換

## 困ったときの対処法（点火プラグの点検）

**点火プラグの点検** ※機種により、プラグの位置、プラグキャップやリコイルの形状等異なります。ご了承ください。

①プラグキャップを外し、付属のプラグレンチでプラグを外し、先端を確認します。



付属のプラグレンチで反時計回りに外します。振動等で緩まないよう少し固めに締め付けられています。

### 先端が濡れている

燃料で濡れているため布等でよく拭きます。

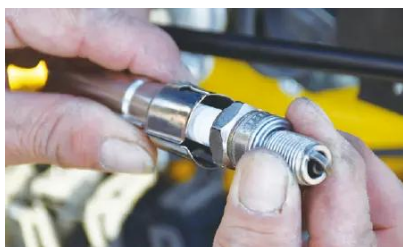


リコイルスターターロープを引いて（15～20回）、プラグ穴から燃料が出てこないか確認し、出てきたらよく拭き取ります。

※「先端が濡れていない」に進みます。

### 先端は濡れていない

②外したプラグをキャップに取付けます。



③スイッチをONにします。

④プラグ先端をエンジン金属部に当てながら、リコイルスターターを引きます。





### 火花が出る

プラグに異常はありません。プラグ先端の濡れは燃料の行き過ぎで起こります。  
再度エンジンをかけ、確認ください。それでもかからない場合は、他の原因が考えられます。

### 火花が出ない

エンジンオイル不足かプラグの不良か他の原因が考えられます。  
購入先にお問い合わせください。

# 保証内容について

2023.8 現在

本規約は、ハイガー（以下「弊社」とする）を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

## 1. 保証の期間

商品発送日（ご来店引取の場合ご来店日）から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

## 2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。（以下、この無料修理を「保証修理」とする）往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

## 3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象（退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等）
- (11) 機能上影響のない感覚的な現象（音、振動、オイルのにじみ等）
- (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
- (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品（ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラジ、チェーン、バルブ内部の部品、パネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャープピン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等）
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填（休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等）

## 4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

## 5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡ください。  
またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。  
症状・使用状況を伺いし、お手持方法をご案内させていただきます。

## 6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- ・無在庫転売者（送り先が毎回違う購入者）の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

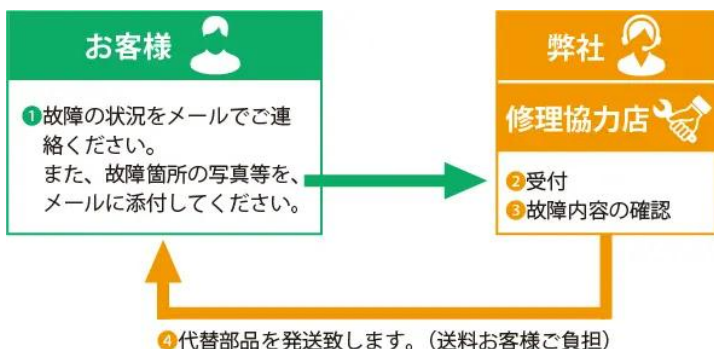
## ■アフターサービスについて■

1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
3. 保証期間（1年間）を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

# お客様ご相談窓口

## 故障部品をお客様で交換される場合

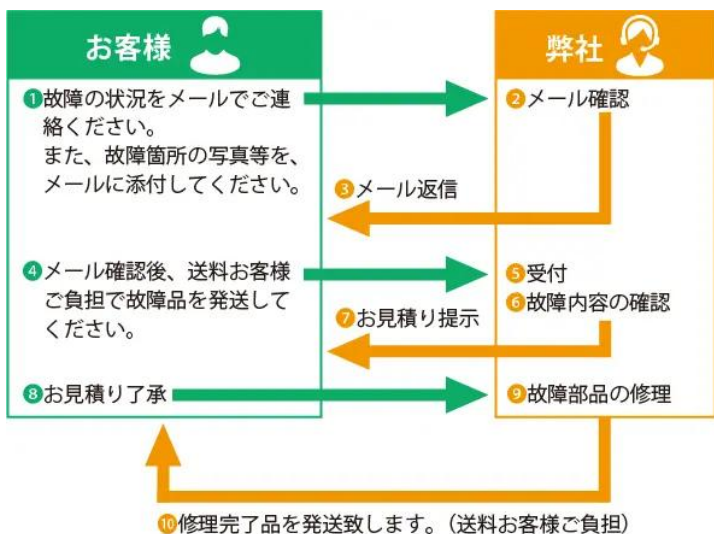
弊社にメールにてご連絡頂くかお近くの修理協力店にご連絡ください。  
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる**往復の送料は全てお客様のご負担**となります。



## 故障部品を弊社で修理する場合

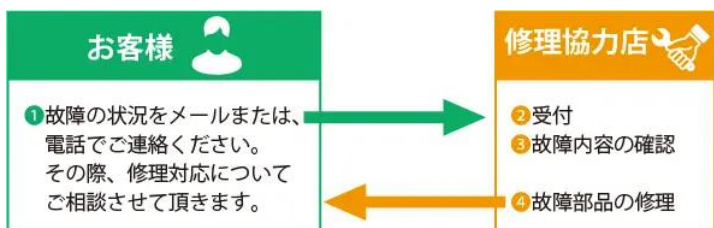
弊社にご連絡ください。  
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる**往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担**となります。

修理依頼されるときは、メールにて下記事項をご連絡ください。  
・ご注文番号・商品名・商品の型番・故障の状況・購入サイト・購入年月日・お名前・ご住所・電話番号



## 故障部品を修理協力店で修理する場合

お近くの修理協力店にご連絡ください。  
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる**往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担**となります。  
遠方の場合の出張修理や引取り修理は、別途料金が発生致します。



■保証適用について■  
まず、ご購入された店舗にご連絡をしてください。

保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる往復の送料は全てお客様のご負担となります。

- ・本商品が対象となります。
- ※ただし、以下の場合は保証適用外となります。
- ・お客様のメンテナンス・確認不足等によるもの。
- ・人為的な破損等。
- ・運送会社など、第三者により生じた支障。
- ・弊社が故意・過失・他、正常のご使用に反して生じたと判断する全ての支障。

#### ■初期不良について■

- ・初期不良期間は、ご使用回数に関係なく商品発送日より7日以内とさせていただきます。
- ・商品受領後、1週間以内にご連絡ください。
- ※無償修理又は無償交換のいずれかを弊社判断にて、ご対応させていただきます。
- ・修理協力店にご依頼の際は、修理工賃・部品代・送料は当社が負担させていただきます。

#### ■消耗品について■

- ・消耗品につきましては、初期不良以外はすべて有償となります。

#### ■保証期間について■

- ◎詳細は「保証内容について」ページをご確認ください。
- ・商品が出荷された日・お渡し（ご来店時）から1年間となります。業務用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。

## 修理、部品に関するご相談

修理依頼される時は、下記事項をご連絡ください。

- ①ご注文番号
- ②商品名
- ③商品の型番
- ④故障の状況
- ⑤購入サイト、年月日
- ⑥お名前
- ⑦ご住所
- ⑧電話番号

## 修理、使い方などのご連絡窓口

お手数ですが、今一度本取扱説明書を熟読し、弊社のサイトや動画等を見ていただき、問題が解決しない場合は、下記までお問い合わせください。

修理やご相談は本社カスタマー・サポート・センターまでお願い致します。  
受付は年中無休ですが、メールのご返信は平日のみとなります。  
また、内容によってはお調べするのに数日要する場合があります。  
ご了承ください。  
本社カスタマー・サポート・センター→<https://haige.jp/c/>

## 修理協力店

---

修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

本店サイト▶

<https://www.haigeshop.net/html/page3.html>

楽天サイト▶

<https://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/support/repair/shop/>

ヤフーサイト▶

<https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

## カスタマー・サポート

---

「製品のお困り事」は、カスタマー・サポート・センターへ。  
「製品が利用できない」、「故障かな?」、「修理をしたい」、「パーツを購入したい」など、下記カスタマー・サポート・センターへ、お問い合わせください。

カスタマー・サポート・センターお問い合わせ窓口▶

<https://haige.jp/c/>

